



Taku Ikezawa

責任ある仕事 をこなして やりがい

吉田建材 池澤 卓 取締役生産本部長 兼 東京若洲工場長

レインボーブリッジなど東京臨海副都心のインフラ整備が最盛期を迎える時期に入社した吉田建材の池澤卓取締役生産本部長兼東京若洲工場長は、当時の旺盛な生コン需要に対応するため、日々品質管理試験に取り組むとともに、コンクリート主任技士資格を取得して27歳で管理職に就いた。現在は、工場長として工場の運営と後輩の指導に注力している。池澤工場長のキャリアについて何うとともに、同工場の人材育成の現状などを聞いた。

現在の倍以上の出荷量に対応

池澤取締役は、学生時代土木設計を学んでおり、材料研究としてコンクリートに触れる機会はあったものの、測量や設計が学科の中心だったことから、将来携わる仕事として意識したことはなかったという。就職を考える際に、親しくなった材料研究の先生に相談したところ、転勤が少ない職種として生コンクリートの仕事を紹介された。

同社に就職したのと同時期に本格稼働が始まった東京若洲工場に配属が決まり、現在まで同工場に勤務している。「レインボーブリッジの建設が行われていたころで、インフラ整備が最盛期を迎えていました。出荷量は現在の2~2.5倍だった時期もあり、1日の打設量が昼夜を通し3,000㎡ほどだったこともあります。土曜日も出勤で、現在では考えられませんが、工場と現場を行き来して生コンの品質試験に明け暮れるという状況で、明け

方試験に行ったレインボーブリッジの上で寝て、また起きて試験をすることもありました。テストピース用の型枠が200本あっても追いつかないくらいです」

大臣認定取得に携わる

多忙なかでも同世代の同僚も多く、当時は社員旅行をはじめ社内のイベントなどで親睦を深める機会も多くあったことから、楽しみながら技能に習熟し、知識を深めていった。資格取得のための勉強にも取り組み、コンクリート主任技士資格を取得。取得後、27歳で品質管理課長に就いた。「若くから責任ある仕事を任せてもらえたと思います。試験練りなどで顧客対応を行う際、ほとんどが年上の方でしたから、技術に基づいて説得力を持ってお話しすることは心掛けていました」

高強度コンクリートの国土交通大臣認定の取得にも携わった。「それまでゼネコンの技術者の方と話をする



東京若洲工場全景

機会はなく、大臣認定制度が開始されて間もない時期でもあったので、実験や書類作成など、手探りしながら認定取得を行いました。当時は大変でしたが、今思えば貴重な経験だったと思いますし、達成感もありました」と話す。

現在は、東京若洲工場の工場長として、後輩を導く立場だ。同工場の従業員は17人で、平均年齢は46歳。有資格者はコンクリート主任技士が4人、コンクリート技士が8人となっている。同社では、資格取得を奨励しており、池澤取締役は以前、オリジナルの試験問題を作成するとともに、コンクリート主任技士向けの論文添削などを行って、後輩たちの勉強をサポートしていたという。「試験担当者にはコンクリート技士を必ず取得してもらうようにしています。資格取得による昇給制度も設けているので、オペレーターやドライバーの方にも、やる気のある人は取得してもらいたいと

思っています。とくにドライバーの方は、最も現場に近い立場でもあり、生コンの知識があると助かりますので、資格取得に期待したいですね」



骨材ストックヤードとベルトコンベヤ



継続的に新人の採用を行っている

週休2日制実施で求人の効果

同社は採用活動に注力しており、ホームページで職種別インタビューを掲載するほか、工場技術者採用の特設サイトも立ち上げている。就職説明会などにも積極的に参加してPRを行っており、昨年から今年にかけて20歳代の新人を3人採用している。2025年4月から完全週休2日制を実施することを見据えて、ホームページの募集要項にも掲載した影響もあったと見ている。「募集要項に完全週休2日制を掲げてから応募は多くなり、週休2日制を掲げた効果は大きいと感じています。ドライバーも社員として募集を開始したところ、応募は途切れることなくきている状況です」。ドライバーも2025年4月から2人採用した。完全週休2日制による稼働日の減少が収入に大きく影響するドライバーについては、収入が減らないよう4月から工夫を行っているという。「今後は、ドライバー以外の社員についても対応が必要だと考えています」。

生コン需要減少によって厳しい状況が続いてますが、検討していきたいと思っています」

人材育成方針としては、新人を採用した際、近い年次の社員が先輩として中心的にサポートを行うかたちを基本としている。「責任をもって新人を教えることで、自分もより深く学び、覚えることができます。そのうえで、過度のプレッシャーがかからないよう、先輩として教える役を務める社員をしっかりと支援するよう心掛けています。慣れていない

うちは一人にせず、フォローできるように努めており、何でも話すことができ、わからないことも聞きやすい職場なので、そうした雰囲気早く馴染んでもらえればと思っています」

「個人的には、若いときから責任のある仕事を任されることで、やりがいを感じることはできましたが、今とは時代や環境なども異なり、働くことに対する考え方も変わってきています。ただ、一つひとつ着実に仕事をこなしていくことや、責任ある仕事を任されるようになれば、達成感などを覚えることも多いと思います。目標をもって、楽しんで仕事に取り組んでもらえれば、やりがいを感じられるのではないかと考えています」



製造・技術職採用の特設サイト